

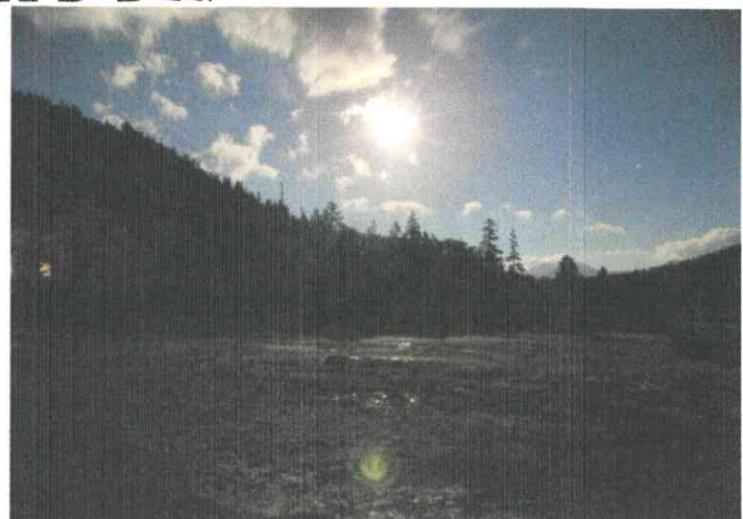
2015 高原沼情報

NO. 1
第10号(10月3日)
発行:ヒグマ情報センター

沼巡りコースの入山規制について

入山受付7:00～13:00まで。下山時間15:00までです。
この時間外は入山できません。なお、入山前に必ずヒグマ
情報センターで入山届けを記入し、レクチャーを受けてから
入山してください。

【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



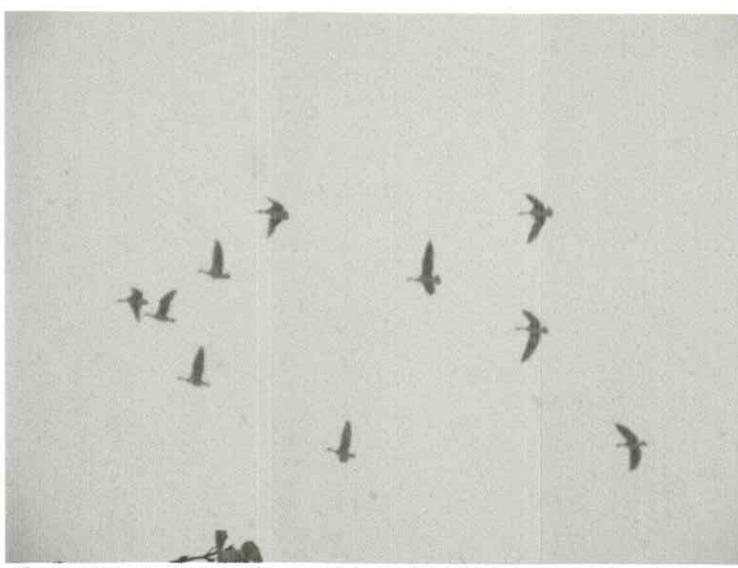
①「中秋の名月」残念ながらスーパームーンは見られませんでした。(9月27日)



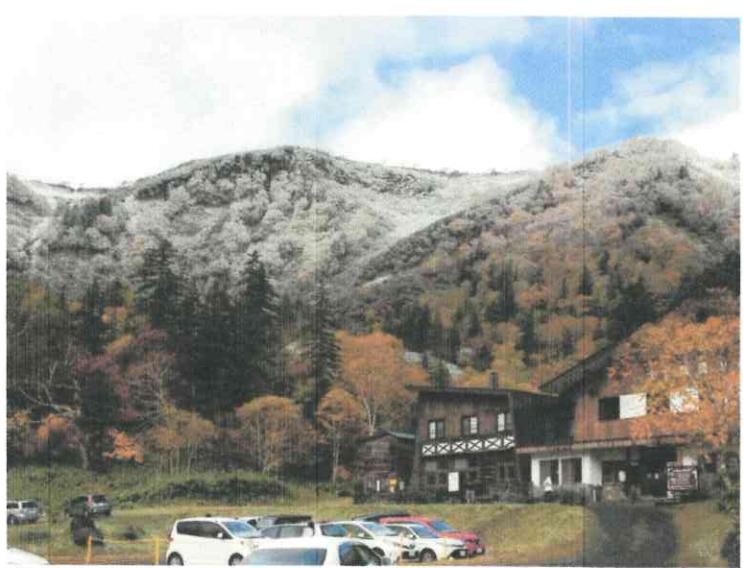
②9月28日、強風が吹き始め、沼には白波が立ち、上空で雷鳴がとどろき、雹が降ってきました。そして雹が雪に変わり、高原温泉の初雪になりました。



③9月29日午前11時前から雪が強くなり、一気に雪景色になりました。コース内からの緑岳初冠雪も確認しました。



④雪が降る中をマガノ群れが行く道を探すように鳴き交わしながら、何度も何度も上空を旋回していました。(9月29日)



⑤高原温泉も一時、吹雪になり、裏山も雪化粧をしました。(9月29日)



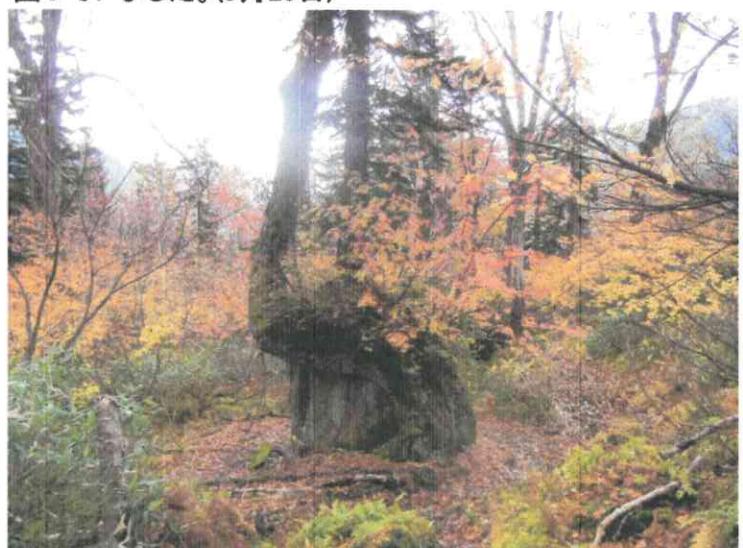
⑥東の間の晴れ、嵐の前の静けさ、10月2日には暴風が吹き荒れました。(10月1日)



⑦新雪の上に足跡を残し、シマリスがちょろちょろと走り回っていました。(9月29日)



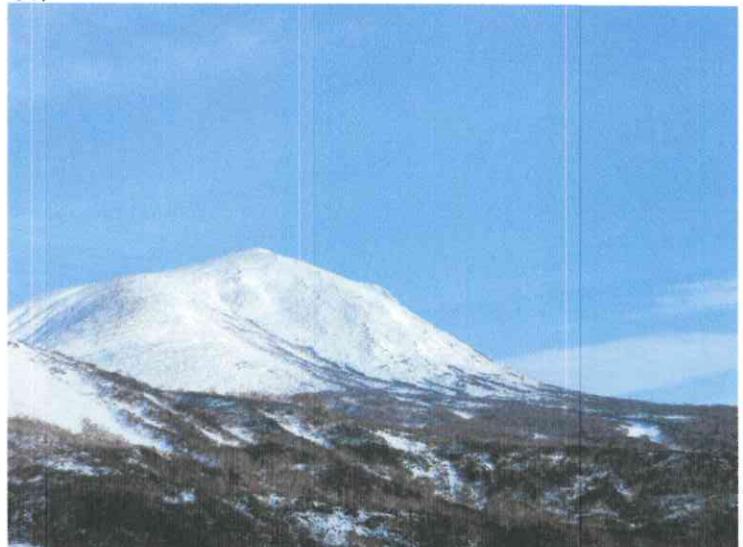
⑧昨年から水が引かなくなった雪壁温泉近くの歩道上の水溜り、今年は全く水が引くことはありませんでした。雪壁新沼と成りえるのでしょうか。(9月28日)



⑨巨岩を抱いてダケカンバが根を下ろし、その上にエゾマツやナナカマドが育っている「エガシの椅子」です。(10月1日)



⑩紅葉の季節が過ぎ、警戒心の強い動物達の姿をまた見られるようになりました。エゾライチョウは冬羽に変わっていました。(10月1日)



⑪縄岳に登って来た登山者が「今年はもう登らないかも知れない」と言っていました。夏山シーズンも終わりを迎えた。(10月1日)

《お知らせ》大雪高原沼巡りコースは10月9日が最終日で10日からは閉鎖になります。10日午前中にコース内ヤンベタップ川の橋が撤去されます。高原山荘の営業は11日で終了し、町道高原温泉線は11日夕方にゲート閉鎖になります。

2015 高原沼情報

No. 1

第9号（9月23日）
発行：ヒグマ情報センター

沼巡りコースの入山規制について

入山受付7:00～13:00まで。下山時間15:00までです。
この時間外は入山できません。なお、入山前に必ずヒグマ
情報センターで入山届けを記入し、レクチャーを受けてから
入山してください。

【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



写真は全て9月22日



①今期最高の851人の入山者を迎えた沼巡りコースの一日の始まりは、晴れの予報が明け方まで雨が降り、雲が流れる朝でした。ヤンベ温泉もダケカンバの黄色が陽光に映えていました。



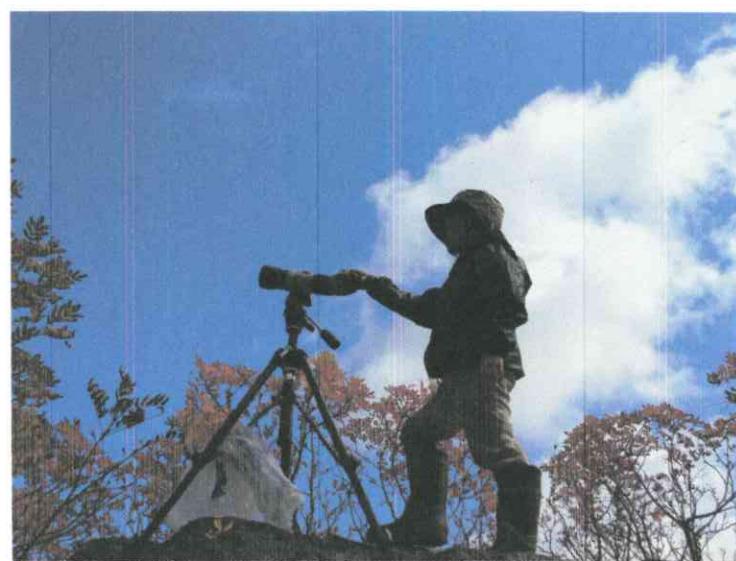
②ミネカエデが黄葉し、明るくなった森を抜け、滝見沼に到着します。紅葉のピークは過ぎた感がありますが、沼に映る色彩はきれいでいた。緑沼周辺も落葉が始まりました。



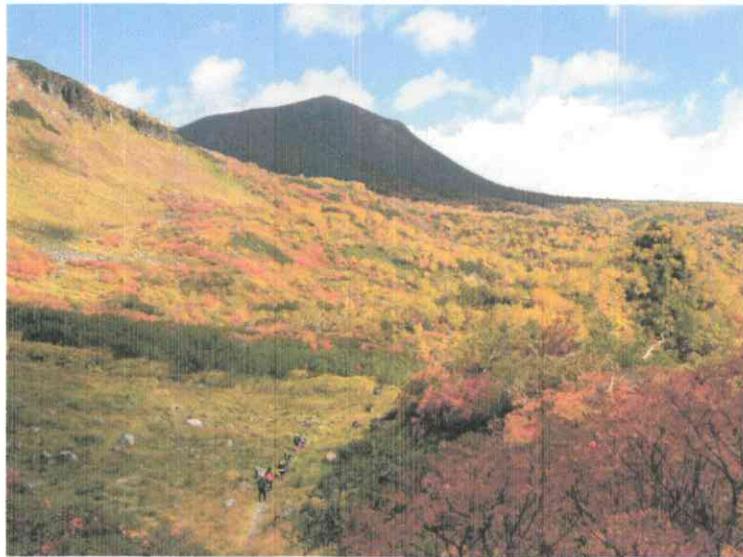
③式部沼、エゾ沼も緑沼、滝見沼に遅ればせながら紅葉のピークを迎えました。大学沼周辺の沼は雪解けの影響を受け、沼の西側東側では色づきに時間差があります。



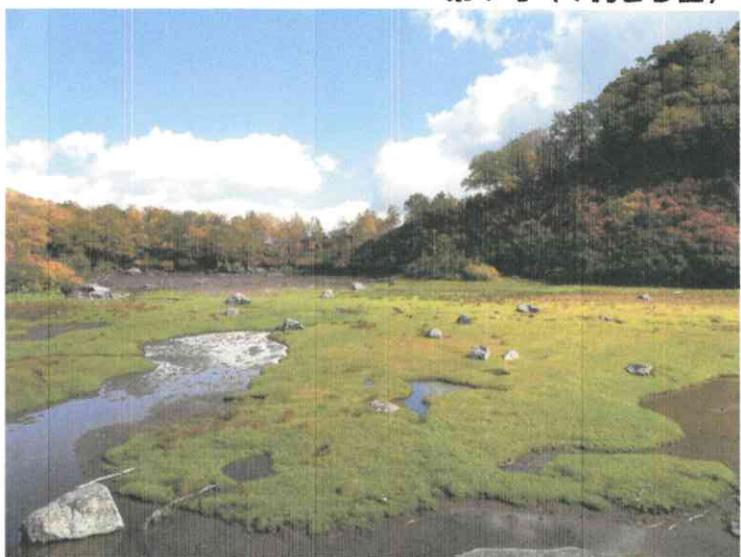
④大学沼、高原沼も休憩をとる人たちで、にぎわいました。雪解けが遅く、紅葉が一番遅い高原沼も例年より早くピークになり、緑岳方面の紅葉と重なり、きれいでいた。



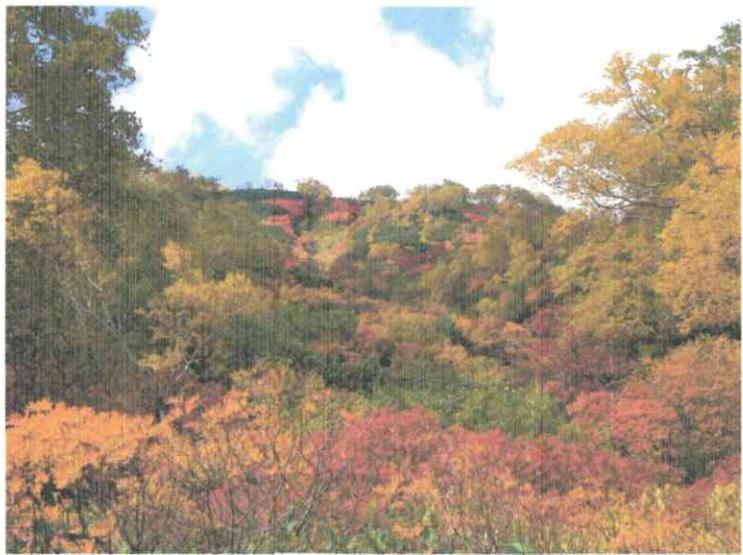
⑤チビッ子ヒグマ監視員も登場しました。この日は家族連れが多く、子供達は泥んこになりながらも紅葉狩りを楽しんでいました。



⑥一周開放が続き、三笠新道から緑岳の裾野に広がる紅葉に歓声が沸き、空沼に進みます。高原沼から望む緑岳は一番山らしく見えます。この日、318人が一周をしました。



⑦水が空っぽのカラ沼です。空沼の紅葉の盛りも少し過ぎました。草原に岩が配され、庭園の様です。奥の泥地にはシカの足跡が沢山ついています。



⑧雪壁温泉を過ぎた雪壁沢沿いで、振り返ると見事な紅葉がありました。時々、来た道を振り返ると素晴らしい景色に出会い、疲れを忘れさせてくれます。



⑨「Grand-mother tree」コースから見える木の中で一番太いと思われるダケカンバの老木です。右コースの新たなパワースポットです。



⑩コース全体的にぬかるみが多く、人々にこねられた泥が石や木の根、階段にのり、非常に滑りやすくなっています。21日にはケガ人も出ました。決してケガをすることの無い様、気をつけて歩いてください。



⑪意外とついこのコース、最後の最後まで登りがあります。最後の坂を登りきり、ようやく高原温泉が見え、「やっと着いた」と一安心です。お疲れ様でした。高原温泉が紅葉の盛りになりました。

2015 高原沼情報

NO. 1
第8号（9月12日）
発行：ヒグマ情報センター

沼巡りコースの入山規制について

入山受付 7:00～13:00まで。下山時間 15:00までです。
この時間外は入山できません。なお、入山前に必ずヒグマ
情報センターで入山届けを記入し、レクチャーを受けてから
入山してください。

【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



②ゲンゴロウモドキの幼生です。右が終齢幼生で左に2歳くらいの幼生がいます。この後、大きな幼生が小さい方に襲いかかり、捕食しました。沼の中では厳しい生存競争が繰り広げられていました。(9月6日)



④高原ピークのそばの歩道上に真新しい糞が落ちていました。中には草本類の地上部にハイマツの実が混ざっていました。今後、ヒグマたちの食性は栄養のある木の実に移行していきます。(9月4日)



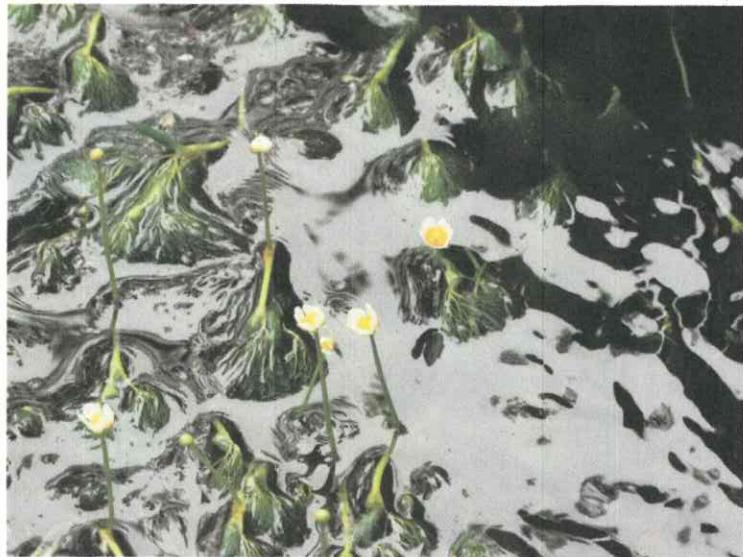
①赤く染まったモウセンゴケです。もともと赤い色をしていますが、鮮やかさが増しています。葉先の毛には虫を捕らえる、ねばねばした液体がついている食虫植物です。7月頃、白く小さな花をつけます。(9月7日)



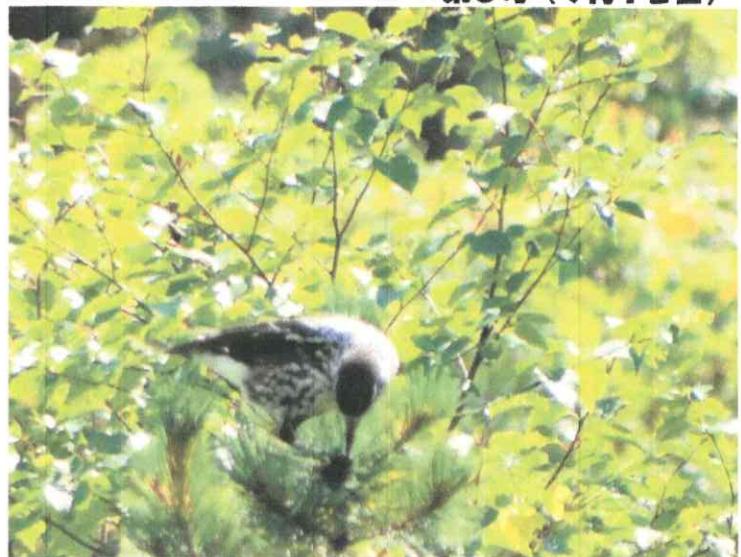
③眼光鋭く、獲物を探すノスリです。高根斜面ではノスリの舞が良く見られます。稜線で気流に乗り、ホバリングをしたり、数羽で旋回したりしています。(9月5日)



⑤大学沼から見える雪渓にヒグマが現れました。この日は多くの登山者が訪れ、雪渓上を走るヒグマに歓声があがっていました。ヒグマの観察は少なくなりましたが、たまに姿を現しては生活の一端を見せてくれます。(9月6日)



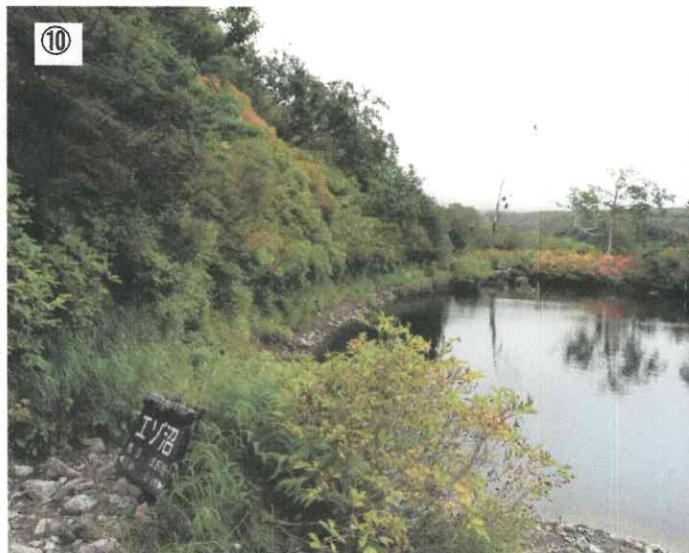
⑥清流に自生するバイカモです。なんと7月14日に初めの花が開花してから未だに見られます。蕾もあります。水温の方が安定していて、外気温にはあまり左右されないのでしょう。(9月10日)



⑦最近、ホシガラスが沼と高根斜面、あるいは稜線に向って飛んでいる姿を良く見ます。ひらひらと飛んでいるように見えますが、この間、僕に突進してきた時はその羽音はジェット戦闘機のようでした。(9月7日)



⑧⑨沼巡りコースの紅葉は緑沼、滝見沼が一番進んでいて4、5割ほどの色づきでしょうか。入山者も「きれいでした。」と言って帰るほどです。大学沼周辺でも3割程度に色づいています。高原沼あるいは高原ピークからの綠岳方面を遠望する紅葉もきれいになってきました。すっきりした青空の下、綠岳を拝みたいものです。きっと綠岳のタスキもピークに近いはずです。(9月11日)



高原温泉のマイカー規制が9月19日から始まりますが、それに合わせて沼巡りコース1周開放の予定をしています。ヒグマの出没状況、荒天時にはコース規制をする場合があります。紅葉期には多くの入山者がいますので、ヤンベタップ川の橋やその周辺、ショウコノ沢、エゾ沼(⑩)等、登山道が狭く、すれ違いが出来ない場所がありますので譲り合って安全に通行してください。また、コース中には雨が降ると田んぼのようなぬかるみが出来る場所があります。緑沼の先に木道を敷きましたがほんのわずかな区間です(⑪)。足回りの装備をしっかりして、植生を傷めないように歩いてください。(9月10日)



2015 高原沼情報

NO. 1
第7号（9月2日）
発行：ヒグマ情報センター

沼巡りコースの入山規制について

入山受付 7:00～13:00まで。下山時間 15:00までです。
この時間外は入山できません。なお、入山前に必ずヒグマ
情報センターで **入山届け**を記入し、**レクチャー**を受けてから
入山してください。

【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



②色づき始めた滝見沼です。徐々にではありますがコース
中で紅葉が始まりました。ダケカンバが斑に黄色くなったり、
気の早い樹木は赤く染まつたりしています。まだ、全
体的には1割にも満たない色づきです。(9月2日)



④様々な大きさや色のきのこが沼巡りコースの到るところで
目に付くようになりました。このきのこは1cmにも満たない小
さなきのこです。森の中の小さな営みを感じます。(8月22日)



①青く、きらきら光る素敵な指環を見つけました。霜が降
りた今日、日差しを浴びて、ニホントカゲが体を温めていま
した。(8月25日)



③緑沼でじっとしていたら、オオルリボシヤンマが止まりま
した。写真を撮ろうとしてもなかなか撮れないのに.....。生き物
たちの行動は、きまぐれです。(8月26日)



⑤早朝、虹が架かりました。虹の向こうにはヒグマの世界が
待っていました。この日、7組13頭ものヒグマを観察できま
した。(8月27日)



⑥今年は標高の低い所から紅葉が始まっています。ウラジロナガカマドは三笠新道や、雪壁沢辺りで先に紅葉が始まりました。緑岳のタスキもようやく色づき始めました。(9月2日)



⑧突然、ばたばたとエゾライチョウが4羽、飛び立ちました。その羽音に一瞬、驚かされました。この頃、ミズバショウの中からキジバトの群れが飛び立つたりと、「もしや、クマ!」とは思わないですけれどびっくりさせられます。(8月29日)



⑩高根斜面でのヒグマの観察は出来ない日も出てきましたが、コウモリ雪渓や三笠新道でちらほらと目にします。8月2日から観察の親子の子グマは大分、成長してきました。ヒグマの生態についてはスタッフに気軽にたずねてください。(8月30日)



⑦マルハナバチはわずかにしか開かないエゾオヤマリンドウの花の中に潜り込んで蜜を吸います。花がもぞもぞと動いているのは一興です。緑沼周辺でもエゾオヤマリンドウが見頃になりました。(8月29日)



⑨大学沼の畔、親子のシカです。シカを見る機会も増えてきました。昨日はシカに近づく、親子グマを観察しました。クマはシカを気にせず素通りし、シカは警戒をするも逃げるこはありませんでした。(9月2日)



⑪これから紅葉も始まり、沢山の入山者が沼巡りに訪れる時期になります。森、本来の姿を守る為に沼巡りコース入口の沢にて、入山前に靴底を洗って下さい。ご協力よろしくお願ひします。(8月28日)

2015 高原沼情報

NO. 1
第6号(8月19日)
発行:ヒグマ情報センター

沼巡りコースの入山規制について

入山受付7:00～13:00まで。下山時間15:00までです。
この時間外は入山できません。なお、入山前に必ずヒグマ
情報センターで入山届けを記入し、レクチャーを受けてから
入山してください。

【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



②木道の設置を始めました。まだ、ヒグマの活動が活発な
為、パトロール前後の限られた時間に少しづつ整備をして
いきます。(8月17日)



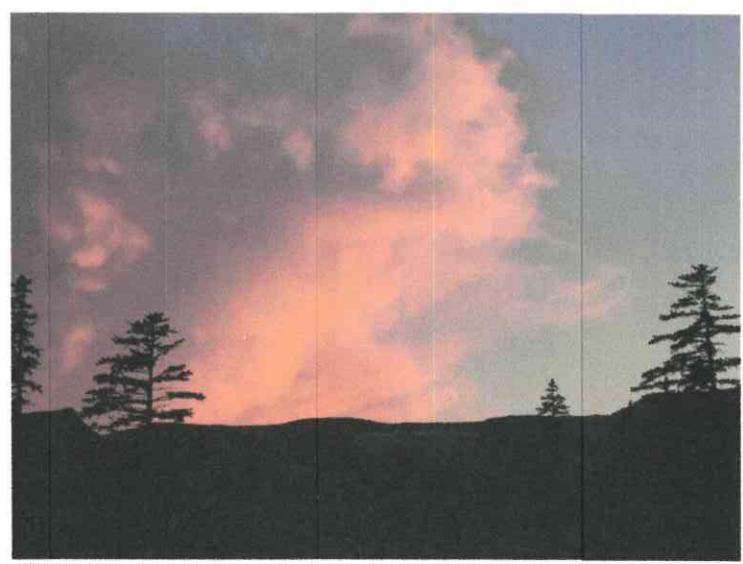
①真上から見ると風車のように見えるシオガマギクが湯の
沼過ぎの沢沿いに咲きました。最後のピンク色の花です。
数が少ないせいもあるのでしょうか、妙に惹きつけられる花
です。(8月17日)



③カワガラスの独り立ちした若鳥が湯の沼の橋の上で白目
をむいて右往左往していました。白目をむくように見えるの
はまぶたが白く、頻繁に瞬きをするからです。(8月13日)



④お湯が湧き出る湯の沼のほとりにエゾオヤマリンドウが
咲きました。夏の終わりを告げる花です。これから緑沼周辺
でも開花していきます。(8月14日)

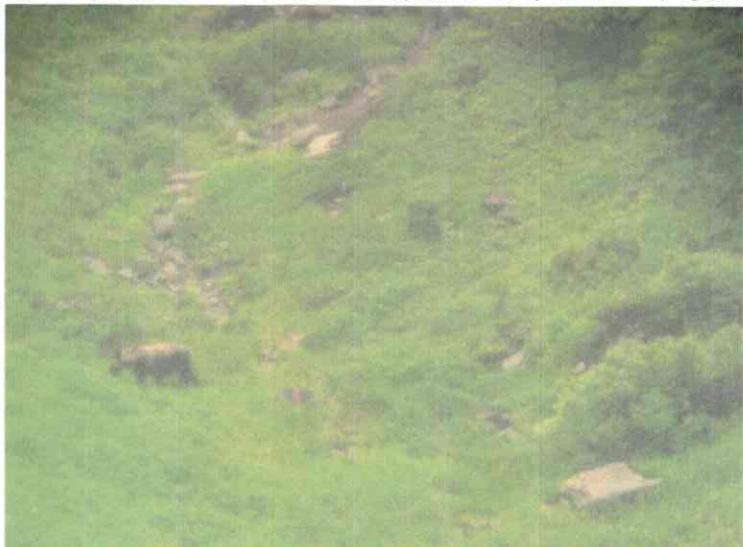


⑤「高原温泉夕景」不安定な天候が続くなか、要塞のような
雲が焼けました。(8月13日)

8月中旬に入り、三笠新道でのヒグマの観察が多くなりました。晩夏に入り、雪解けの遅かった三笠新道で行く夏を惜しむかのようにヒグマたちが活動しています。



⑥8月15日に三笠新道で親子グマと単独グマが50m前後の距離にいるのを観察できました。互いに意識しながらも、各自の行動をしていました。過去の観察からヒグマ同士が近距離で何事も無く行動をしていたり、追い払いをしたり、一方的に逃げたりと何か力関係を互いに認識しているようです。また、若い個体同士が血縁関係も無いのに行動を共にすることもありました。ヒグマには決まった縄張りというのではなく、時には相手に対し、寛容なこともあるようです。(8月15日)



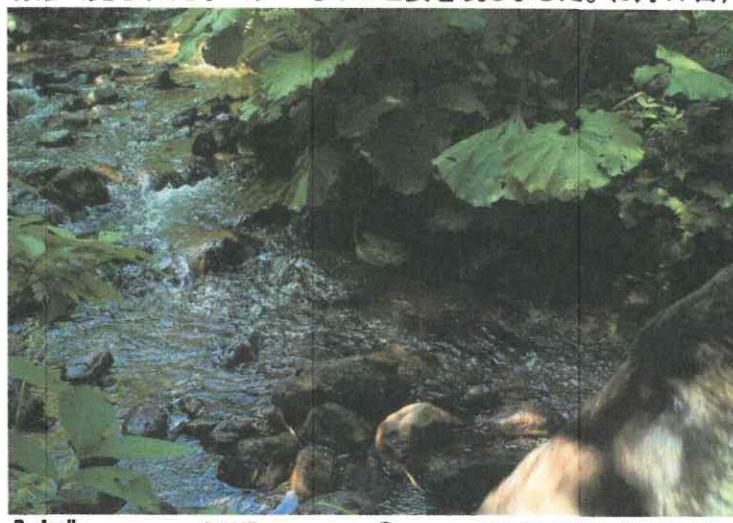
⑦三笠新道、ガンバ岩で採食するヒグマです。7月15日から観察できているクマですが2週間見ることが無く、再会時にはその毛並みや、毛色がすっかり変わっていました。成長期の若い個体は変化が著しいです。(8月12日)



⑨この日、4組目に登場した親子3頭です。子グマたちは深い草地に埋もれ、何回も立ち上がっては周りを見ていました。この親子は8月15日には高根ヶ原で登山者に目撃されています。(8月17日)



⑧三笠新道上の草地で採食をするオスのクマです。昨年、数多く見られたオスグマもやっと姿を現しました。(8月17日)



⑩ヒグマがショウコノ沢のセンサーを覗きこみました。午前10時のことでした。8月17日には午前11時前にセンターから0.6kmの森の中で入山者が至近距離でヒグマを目撃しています。ヒグマは昼間も歩きますので見通しの効かないところでは注意してください。(8月14日)

Bushnell

017°C

08-14-2015 10:02:20

2015 高原沼情報

NO. 1
第5号（8月10日）
発行：ヒグマ情報センター

沼巡りコースの入山規制について

入山受付7:00～13:00まで。下山時間15:00までです。
この時間外は入山できません。なお、入山前に必ずヒグマ
情報センターで入山届けを記入し、レクチャーを受けてから
入山してください。

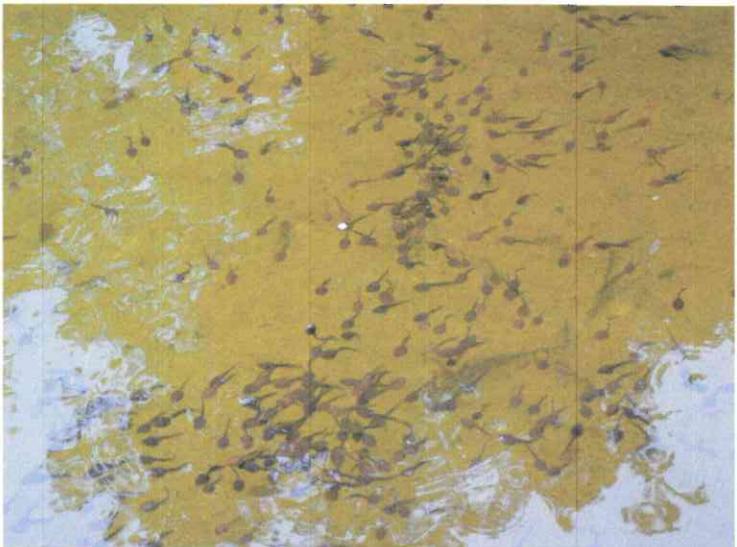
【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



①ゼンティカが咲きました。呼び名はいろいろあり、一日花と知られるユリです。土俵沼から滝見沼にかけて笹藪の中に多くありますが、花はほとんどつけません。これが10年振りくらいの花です。翌日には散っていました。(7月31日)



②アキアカネが雨が止むのをじっと耐えていました。今年は大雨が多く、虫たちには辛い年かも知れません。アキアカネは、しばらく高山で過ごし、里が涼しくなると山を降りて行きます。(8月6日)



③一体何匹いるんでしょうか?鴨沼のおたまじゃくしです。間もなく変態し、カエルになります。もう既に上陸した子ガエルが、コースのあっちこっちで見ることができます。場所によっては踏みそうになるほどです。(8月6日)



④鴨沼のシラネニンジン畑です。歩道脇にはハクサンボウフウやオオバセンキュウ、オオハナウドなどクマの食物になるセリ科の花が良い香りを放ち、咲いています。(8月9日)



⑤高原沼にも花畠が広がってきました。エゾコザクラ、ミヤマキンバイ、チシマノキンバイソウなど、残り少ない夏にいっせいに咲きだしました。(8月9日)



⑥湯の沼の上の沢沿いでダイセツトリカブトが開花しました。これからミヤマアキノキリンソウなど黄色と紫色で沢沿いを彩ってくれるでしょう。(8月10日)



⑦式部沼です。大雨と霧で登山者も来ず、ひっそりとしていました。沼コースで唯一、白雲岳避難小屋が見えるところです。(8月6日)



⑧関係機関及びボランティアの協同で木道用の資材が荷揚げされました。わずかな区間ではありますが、センタースタッフが木道を設置していきます。(8月1日)



⑨8月2日から8月7日まで観察できた親子3頭です。高根斜面に居つくクマが少ない中、また顔を見せて欲しいです。(8月2日)



Bushnell 020°C 08-05-2015 14:15:26

⑩緑沼から少し上ったところのショウコノ沢です。過去に入山者がヒグマと遭遇したこともある場所です。そのセンサーカメラにヒグマの親子が写りました。(8月5日)



⑪ヒグマ観察会で入山者がヒグマを観察できました。野生のヒグマを見るのは初めてとのことで非常に喜んでいました。スタッフによるヒグマの生態解説にも真剣に耳を傾けてくれました。(8月10日)

【お知らせ】8月8日から8月22日まで大学沼にて野生のヒグマ観察会及びセンタースタッフによるヒグマの生態解説を開催しています。ヒグマに興味のある方は大学沼にいるスタッフに声をかけてください。なお、高原温泉のヒグマに関するアンケートも実施していますので、どうぞご協力ください。

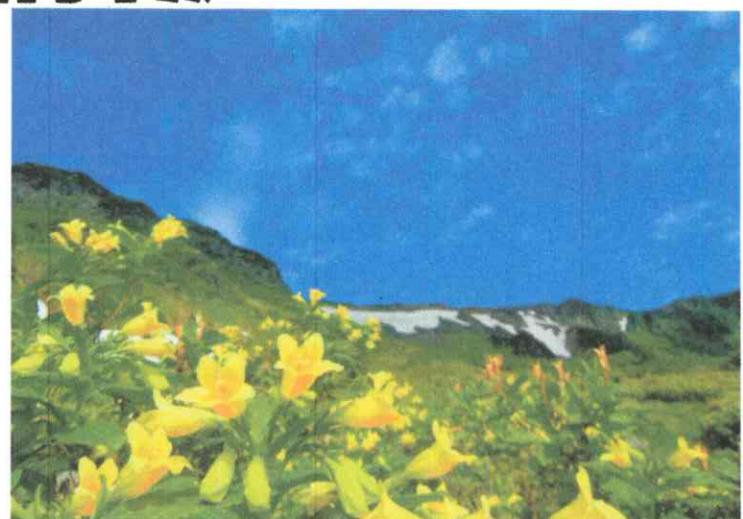
2015 高原沼情報

NO. 1
第4号(7月28日)
発行:ヒグマ情報センター

沼巡りコースの入山規制について

入山受付7:00~13:00まで。下山時間15:00までです。この時間外は入山できません。なお、入山前に必ずヒグマ情報センターで**入山届け**を記入し、**レクチャー**を受けてから入山してください。

【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



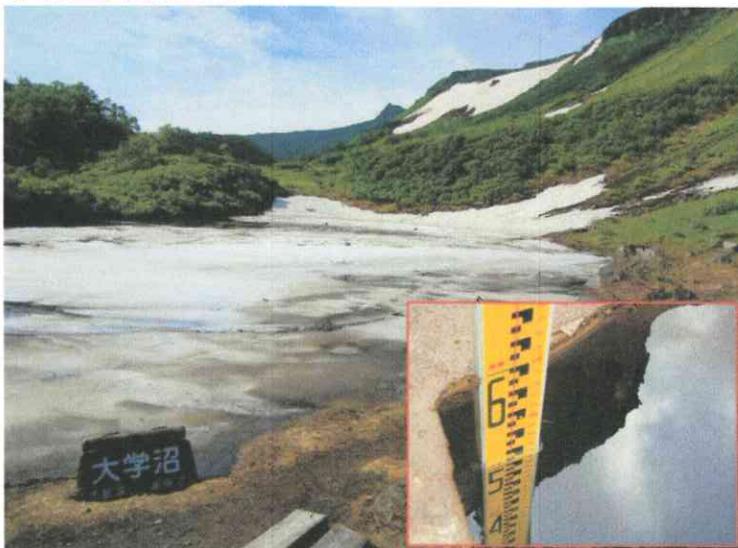
①エゾ沼から高原沼にかけてウコンウツギが見頃になりました。この日は、青空の下、黄色い花が斜面一面に広がり、まだ残雪もあり、美しい景色が望めました。(7月25日)



②木道のすぐ横にヨツバシオガマが咲きました。木道のあるところは、植生が回復し、足元にもたくさんの花が咲きます。歩くときは、足元にも気を配り、植物にもやさしい歩き方をしましょう。(7月25日)



③鴨沼への沢を上っているオショロコマです。しばらく観察していましたが、鴨沼まで行きたいのしようけれど流れが強くて中々前に進めません。夏が来て、沼や沢も賑やかになり、水面や水中の生き物の営みものぞけます。(7月17日)



④大学沼もようやく雪が解け、沼の全容が分かるようになりました。亀裂の入った氷の隙間から水深を測ってみたら、一番深い所で2m50cmの水深がありました。赤い枠の写真是、2m51cmを指しています。(7月25日)



⑤オタギリソウの仲間です。弟切草と書き、薬草と知った兄弟の弟が草の秘密を人に話してしまい、怒った兄が弟を切り殺したという話からついたと言われています。実際、薬草にもなるそうですが毒草でもあります。(7月25日)



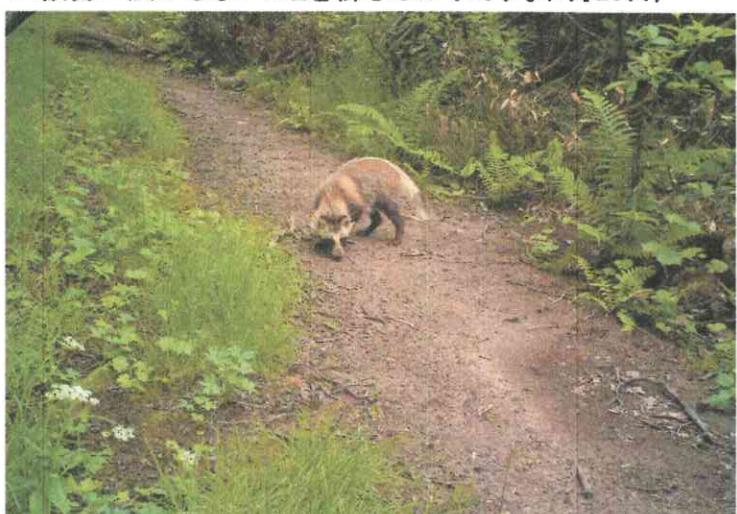
⑥ヌマハリイも水面から顔を出し、夏の景色になった緑沼です。現在、やぶ蚊が大発生し、森の中では立ち止まれないほどに登山者を悩ませています。防虫対策は必須です。(7月27日)



⑦真ん中のグロテスクな虫はヤナギホシハムシの幼虫です。この虫の影響でナナカマドの葉が無残な姿になっています。芽吹きの早かった株は、目も当てられません。これ以上被害が広がらないことを祈るばかりです。(7月26日)



⑧ミヤマイの花が咲き始めました。目立たないですがピンクの奇妙な形の雌しへに黄色の雄しへときれいな花です。高根斜面にも多く群生し、秋口にはヒグマの食べ物になります。(7月24日)



Bushnell 025°C 07-25-2015 10:58:09
⑨エゾタヌキが動物撮影用センサーダラマに撮影されました。センサーダラマにはいろいろな動物や鳥が写りますがタヌキは初めてです。このコース、標高1500m付近での初確認でした。(7月25日)



⑩「旅立ち前夜」サメビタキの親子です。巣立ったばかりの子に親が餌を運んでいました。独り立ちまでにはもう少しかかるのでしょうか。(7月27日)



⑪ヒグマの数が少ない現在、貴重な観察対象になっている親子です。7月15日から大学沼より南の斜面で生活しています。この親子は昨年も確認されています。一人っ子のせいか、親も面倒見が良く、雪渓で子供の相手をして遊んでいます。(7月27日)

2015 高原沼情報

NO. 1 (生きもの特集)
第3号 (7月16日)
発行: ヒグマ情報センター

沼巡りコースの入山規制について

入山受付 7:00~13:00まで。下山時間 15:00までです。
この時間外は入山できません。なお、入山前に必ずヒグマ
情報センターで入山届けを記入し、レクチャーを受けてから
入山してください。

【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



②エゾアカガエルが足の脇に葉っぱを挟んだまま移動中、
一体どこに持っていくつもりなの?体長約6~7cm位とこの種
では見事な大きさ、やっと山も暖かくなり、生きもの達も活発
に動き始めています。(7月14日)



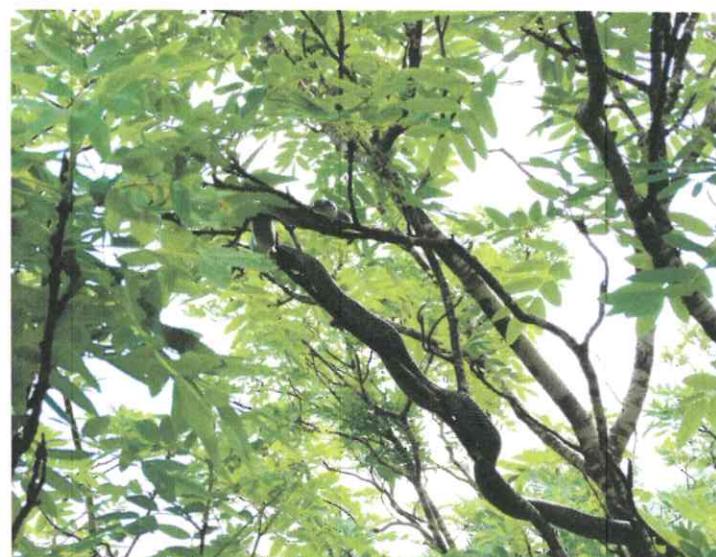
④ルリビタキの雛が岩の下から飛び出してきました。どうやら驚かせてしまったようです。親鳥は周りで「ヒッ、ヒッ」と警戒している様子です。雛もじっと、まなざしをこちらに向けています。(7月10日)



①巣立ちの季節です。2羽のミソサザイが飛び去ることなく、
こちらを見していました。鳥がこんな近くにいるなんて至福の
時です。(7月15日)



③キタキツネが餌を求めて、大学沼を徘徊していました。先
日、大学沼の斜面でキツネの狩り、飛び跳ねて、前足で突
いて獲物を捕らえるおなじみの姿を観察できました。(7月15
日)



⑤ウラジロナナカマドの枝をアオダイショウがつたっていました。見事な綱渡り、空中散歩といったところでしょうか。こうして生きものを並べると食物連鎖の中で多様な営みを送っ
ていることに素晴らしいを感じます。(7月14日)



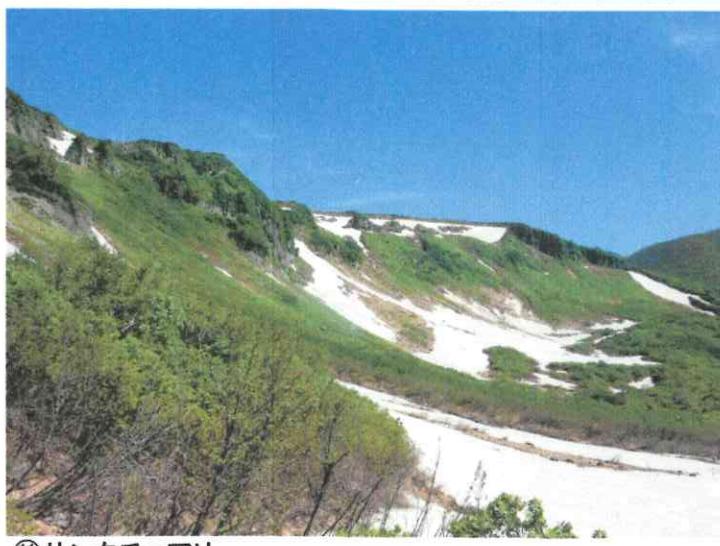
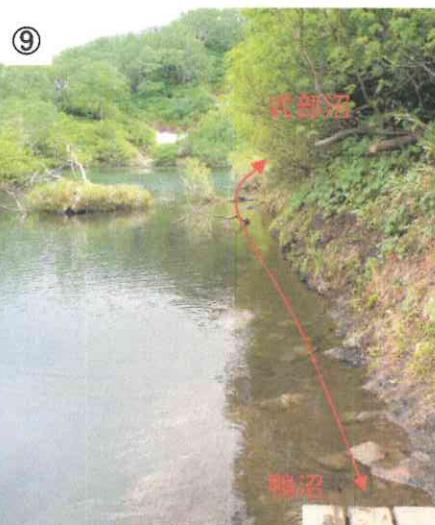
⑥エゾコザクラが緑沼周辺で見頃を迎えました。今、最も華やかな場所です。小さな群落が多くあり、まだこれから所もあります。(7月14日)



⑦鴨沼近くにタニマスミレが咲き始めました。鴨沼周辺から大学沼までのタニマスミレが咲く場所は既に雪が解けていますので、間もなくどんどん開花していきます。(7月14日)



⑧⑨⑩「水の沼巡り。」雪解け水と雨が降れば雨水が混じり、水の香りが充満します。⑧は幻の滝です。否、鴨沼からエゾ沼への道です。飛沫はすねくらいまでかかります。⑨⑩はエゾ沼です。沼の縁にある道の水深はすねから膝下まであります。木道もいかだのように浮いています。特に注意するのは⑩の場所です。歩道の地盤がもろくなっていて、沼に落ちないよう、また人が歩いた直後は水が濁り、道が見えなくなるので足場をしっかり確認して歩いてください。(7月15日)



⑪サンクチュアリ。



⑫大学斜面に現れた若いヒグマ、16日には三笠新道入口近くにも現れました。(7月15日)

【三笠新道の通行止め及び高原沼コースのコース規制について】

7月15日、大学沼から高原沼の上方の斜面で2頭のヒグマを確認し、そのうち1頭の若いクマが1日中、同じ場所で活動しました。この為、沼巡りコースをコース規制することになりましたので7月16日から10月のシーズン終了まで、三笠新道は通行止めとなりました。また、沼巡りコースについても、紅葉シーズンまでは、緑沼経由、高原沼及び大学沼までの往復コースとなりましたので、ご了承ください。

2015 高原沼情報

NO. 1
第1号（6月26日）
発行：ヒグマ情報センター

沼巡りコースの入山規制について

入山受付7:00～13:00まで。下山時間15:00までです。
この時間外は入山できません。なお、入山前に必ずヒグマ
情報センターで入山届けを記入し、レクチャーを受けてから
入山してください。

【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



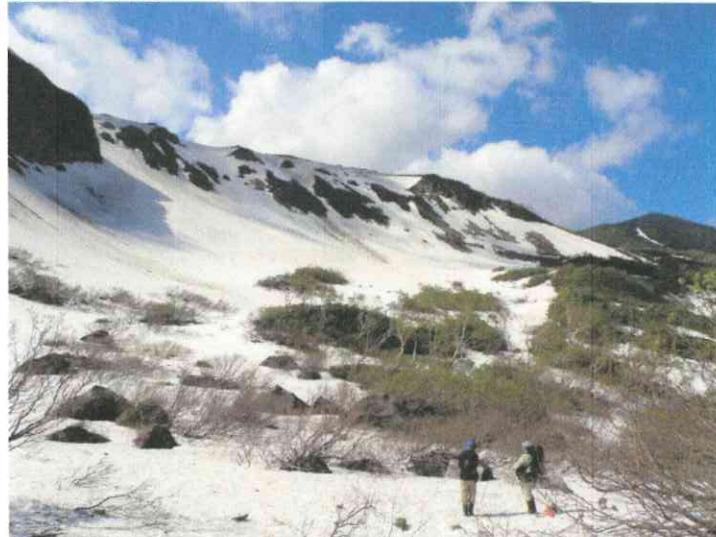
②右コースのヤンベタップ川の渡渉地点は、雪解けにより増水しています。流れも強く、水面下の踏み石は藻がついていて滑ります。慎重に通行してください。山歩きに慣れていない方には、あまりお勧め出来ません。(6月20日)



④ミズバショウは、秋に芽を出した状態で越冬し、雪が解けると咲き始めます。しかし、稀に写真のように雪解けを待たずにつぼみを出す、せっかちな株があります。ヤンベ分岐過ぎから湯の沼近辺で見頃になっています。(6月24日)



①数年ぶりにツバメオモトの花を見つけました。笹の中にひっそりと咲いていました。以前、あった場所には株も見られず、どこに行ったのでしょうか。このコースではとても珍しい花です。(6月25日)



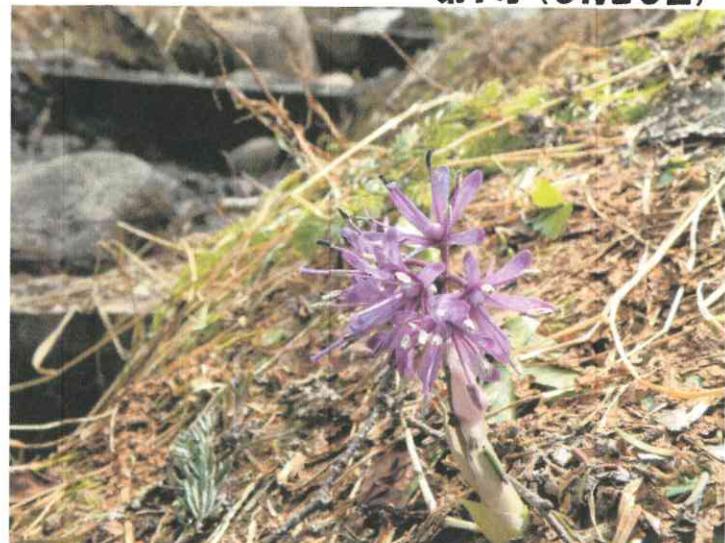
③三笠新道は現在通行できます。昨年並みに早い雪解けにヒグマが好む草地が広がりつつあります。また、先日、滑落事故も起きています。通行には十分注意してください。(6月20日)



⑤高原ピークでは既に岩場が出て、ナキウサギが活動を始めていました。ようやく長い冬を無事に乗り越えて、新しい季節に向かって声を高らかに鳴いていました。この辺りではシマリスも雪の上を走ったりしています。(6月24日)



⑥緑沼手前のショウコノ沢沿いの登山道に昨年より8日早くサンカヨウが咲きました。エゾイチゲ、ミツバオウレン、コミヤマカタバミなど、白い花が歩道脇をにぎわせ始めました。(6月24日)



⑦雪解け直後に開花するショウジョウバカマが樹林帯から大学沼、高原沼近辺で咲いています。ほとんどが背丈の低いものですが、中には花茎が40cmにも伸びた、蛇が鎌首をもたげたような株もあります。(6月25日)



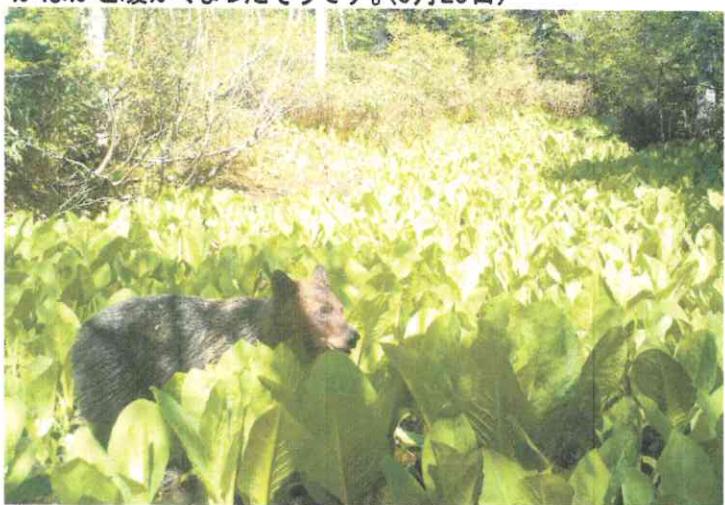
⑧空沼から少し下った場所の雪壁沢です。ヒグマの好む、フキ、ヨブスマソウの新芽が多くあります。右コースにはキバナノコマノツメ、エゾノイワハタザオ、エゾエンゴサクなどが咲いています。(6月25日)



⑨高根ヶ原東斜面で初の個体確認です。高原沼上方の斜面を大きなオスグマがのっしのっしと高根ヶ原に登っていました。新人スタッフは小雨、強風に冷えきっていた体がぽかぽかと暖かくなったそうです。(6月25日)



⑩2頭のヒグマの足跡が樹林帯の歩道につきました。大きさの違いから2頭のヒグマと判断できます。現在、この地域ではヒグマの繁殖期にあり、オスがメスを追いかけたり、あるいは共に行動を一緒にしています。入山者の多い日曜日の午前中、コースオープン時にこの2頭は2度、歩道を歩いています。(6月21日)



Bushnell 011 °C 06-24-2015 08:23:41

⑪センターから300mの歩道脇のミズバショウ群落のセンサーカメラにヒグマが写りました。時間は8時23分と登山者が歩いている時間帯になっています。見通しのきかない所ではヒグマとばったり会わないように音をたてながら歩いてください。(6月24日)